

サポートJOYO

京都府立城陽養護学校 地域支援センターだより

＜相談問い合わせ先＞ 京都府立城陽養護学校 地域支援センター「サポートJOYO」
 〒610-0113 京都府城陽市中芦原1-4 TEL 0774-53-7100 FAX 0774-53-4044
 ホームページ <http://www.kyoto-be.ne.jp/jyouyou-s> (E-mail jyouyou-s@kyoto-be.ne.jp)

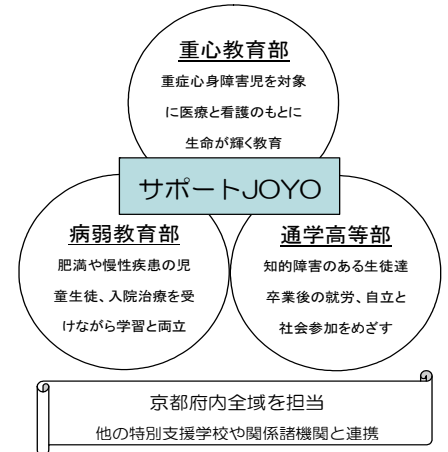
平成22年度
研修会特別号

「サポートJOYO」をよろしく!

京都府立城陽養護学校

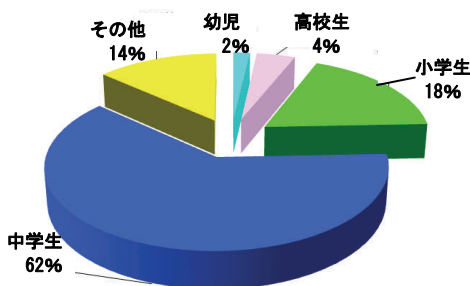
地域支援センター「サポートJOYO」は、4年目を迎えました

昨年1年間で、地域のみなさんから寄せられた相談は、知的障害や発達障害のある子ども達の就・修学や進路に関わる相談、心身の病気や不登校・不適応に関わる相談など、約650件あまりにのぼりました。



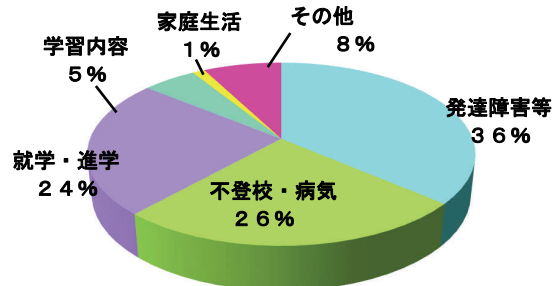
昨年度の実施状況

H21 新規相談者の内訳



相談の対象となる子どもの内訳は、中学生102件（62%）、小学生30件（18%）、高校生7件（4%）となっています。

H21 新規相談者の内容



発達障害等・不登校・病気についての相談は一昨年より増えています。就学・進路等は山城教育局管内の中学生に対する進路相談の割合が高くなっています。

相談・支援の具体的事例

事例1) 高校生、LDの疑いのある生徒への支援（本人からの高校への訴え）

主訴	高校1年生徒。漢字が覚えられない。テスト範囲が広く、社会等の内容が覚えきれない。
実態	<ul style="list-style-type: none"> 本人より、小3頃より漢字が覚えられなかった、板書が写しにくい、テスト範囲が広いと覚えられない、古文は全くわからない、世界史の流れがわからない等の訴えがある。 真面目でクラブも熱心に活動する。友達関係は良好。 担任からは、努力家でコツコツと学習をしているが成績が伴わない、学校として何か支援できることはないかとの相談
相談支援の内容	<ul style="list-style-type: none"> 学校・母・本人とそれぞれと面談。本人の困り感について聞き、WISC-III、バウムテスト実施。 検査結果から、本人の認知特性や心理状況を客観的に示す。 学校として：支援方法について、教科担当者会で伝えてもらい、各教科で板書やプリントの配慮、ミニテスト等の実践を行う。 本人：学習の仕方や、日常的に行えるビジョントレーニングを伝える。 保護者：認知特性と本人の得意な面を伝える。 効果が見られない場合には、相談を継続することを確認。 学期末に、学校からの成績報告を受け、支援の見直しを図る。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 学校側の支援により成績が改善し、本人の表情が穏やかになり学習や部活動に意欲的で、学校生活が充実している。 保護者も成績の改善が見られたことで安心されている。

事例2) 高校生、不登校の生徒の相談（保護者からの訴え）

主訴	高校1年生徒。希望校に入学したが5月から不登校が続いている。身体症状がある。家族とほとんど話さない。
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者：「〇〇高校は難しい」と言われたが努力して合格。連休後突然「頭痛」を訴え、それ以後登校できない。 ・本人より：学校に行った方がいいと思うが、行けない。 ・学校より：成績はトップクラス。きっかけとして考えられることは提出物が出せず、先生に詰められたこと。 ・中3の担任：なぜ不登校になったかわからない。リーダーにはなりたがらないが力のある子。女生徒の中で〇〇高校には、女生徒の中で唯一合格した。
相談支援の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・母・本人それぞれと面談 ・保護者、本人面談の様子を学校側に伝え、学校と連携しながら本人、保護者支援にあたる。 ・高校：中学前担任と連携しながら母親面談と母親へのストレスマネジメントを継続実施。 ・秋頃より、本人来校面談開始。面談と共に本人にもストレスマネジメントを実施。 ・留年が決まり、進路変更を考え、高校のパンフレットを参考に親子面談を行い、学校見学を開始。 ・4月より、新しい学校に転学決定。 ・本人と保護者の希望により、高校と連携を取りながら、必要に応じて来年度も引き続き面談実施の予定
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の気持ちに寄り添うことで、保護者の不登校に対する考え方の変化や気持ちの安定につながった。 ・保護者の信頼を受けることで本人面談が実施でき、本人の不登校に対する罪悪感を和らげることができた。そのことがこれからの進路について前向きに受け止めることにつながった。 ・本人の意志で進路変更を決め、3月現在、週1回新たな進路先に登校している。

平成21年度 講師派遣・研修協力

	主な内容
教育委員会主催の研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害やその周辺児の理解と対応について ・特別支援教育の進路について 等
小中高校の校内研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・WISCⅢの概要と特別支援教育に関わる支援について ・PDD傾向の生徒の支援に関わって ・発達障害について～生徒の支援に関わって～ 等
教育研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級に在籍する特別支援を必要とする児童への有効な手立てについて 等



今年度1学期の相談傾向

昨年度からの継続相談が多くありました。また年度当初より、不登校・発達障害、また就学・進路に関する相談がありました。保護者からの直接相談も多くなっています。
6月まで、すでに相談件数は150件余りに及んでいます。
学校や適応指導教室への巡回相談や、研修会の支援も行っています。

研修会のお知らせ

平成22年度 事例支援研修会

- 【日時】 平成22年11月11日（木） 15:30～17:00
 【会場】 本校 会議室
 【テーマ(仮)】 不登校の子供たち、保護者への支援
 【講師】 京都府教育委員会スクールカウンセラー
 長岡京市地域包括支援センター スーパーバイザー兼カウンセラー
 臨床心理士 森 和子氏

是非、ご参加ください。